



日本バイオプラスチック協会
Japan BioPlastics Association

東京都中央区日本橋箱崎町5-11 ユニバーサルビル6F
TEL:03-5651-8151 FAX:03-5651-8152 [地図](#)
お問い合わせメール

[HOME](#) [BACK](#)

JBPAについて	協会の活動	お知らせ	イベント・セミナー	最新マーケット情報	行政・関連団体
グリーンプラ(GP)	バイオマスプラ(BP)	入会のご案内	バイオプラジャーナル	JBPA会員リスト	会員用ページ

最新マーケット情報

最新

最新マーケット情報

2011年10月のクリッピング情報

2011.10.27 ダウ・ケミカルと三井物産、ブラジルでのバイオポリエチレン事業で原料全量自力調達へ

ダウ・ケミカルと三井物産は、ブラジルにおいて共同で取り組んでいるバイオベースポリエチレン事業の原料となるサトウキビを全量自力調達する。1年半後の達成をめどに、バイオエタノール工場の建設地周辺でサトウキビ農園を開拓している。サトウキビを自社で確保することにより、サトウキビの高騰による原料コストへの影響を防ぎ、バイオベースポリエチレンの価格競争力を高めていく。

2011.10.27 バイオベース、植物由来樹脂の開発本格化

大阪大学と大阪市立工業所を開発拠点とするベンチャー企業のバイオベースは、植物由来樹脂の開発・実用化を加速する。耐熱性、耐衝撃性を大幅に向上させたポリ乳酸(PLA)や、PLAフィルム用の添加剤、ポリオールなどの本格的な実用化を急ぐ。PLA成形品は2012年度中の商品化を目指していく。同社が開発したPLAは一般的なPLAに、植物油脂や乳酸を原料とする添加剤をコンパウンドし、100%植物由来を実現している。

2011.10.25 グリーンケミストリー研究会、植物由来プラスチックなどテーマに技術講演会

グリーンケミストリー研究会は「プラスチックリサイクルの先導技術と植物由来プラスチックの新展開」をテーマに講演会を開いた。このなかでユニチカの技術開発本部日置潤氏が「バイオマス由来ポリ尿素製造技術の開発」について講演、二酸化炭素とひまし油や廃糖蜜などのバイオマス由来のジアミンからポリ尿素を製造する技術を紹介した。バイオマスポリ尿素は、一般的な脂肪族ポリアミドよりも融点やガラス転移点が高いのが特徴。

2011.10.25 三井・デュポンポリケミカル、バイオポリマーなど新規製品群の開拓強化

三井・デュポンポリケミカルは、新規製品の日本市場開拓を進める。バイオポリマーでは植物由来原料を用いたポリトリレンテレフタレート(PTT)である「バイオマックスPTT」で複数用途への採用が決まっている。「バイオマックスPTT」は、耐薬品性、光沢性に優れた透明樹脂で、フィルム・シートの用途のほか、射出成形にも対応できる。グリーン度37%という環境特性が評価され、家庭用、民生用など複数の用途に採用が決まっており、2012年に本格販売を開始する。

2011.10.21 昭和電工、生分解性農業用フィルムを合弁会社に移管

昭和電工は10月20日、生分解性農業用フィルム事業を2012年1月から同社が出資する合弁会社(福岡県)に移管すると発表した。これにともない昭和電工は生分解性樹脂「ビオノーレ」と「ビオノーレスタークラ」の生産・販売に特化する。一方、合弁会社は、ラインアップ拡充を通じて2012年度で10億円と見込んでいる売り上げを2015年度には30億円に拡大する。

- 2011.09
- 2011.08
- 2011.07
- 2011.06
- 2011.05
- 2011.04
- 2011.03
- 2011.02
- 2011.01
- 2010.12
- 2010.11
- 2010.10
- 2010.09
- 2010.08
- 2010.07
- 2010.06
- 2010.05
- 2010.04
- 2010.03
- 2010.02
- 2010.01

- 2011.10.21 **山口証券印刷、ポリ乳酸(PLA)使用のカード「ECO-CR」拡販へ**
 山口証券印刷は、ポリ乳酸(PLA)を約80%使用した国内初の単層厚物カード「ECO-CR(エコシアル)」の拡販を進める。カード素材主流の塩ビ樹脂の代替を狙う。非晶性ポリエステル系樹脂とはほぼ同等のコストを実現しており、各種加工も可能であることから幅広い種類の需要を見込んでいる。2011年は1500万枚の販売が確実となる見通しで、2012年は2000万枚の販売を目指す。日本バイオプラスチック協会のバイオプラ(BP)マークを取得済み。
- 2011.10.20 **帝人、高耐熱バイオプラでフィルム・シート開発**
 帝人は10月19日、高耐熱バイオプラスチック「バイオフロント」のフィルムおよびシートを開発したと発表した。特徴を生かし、パッケージ・印刷基材、光学フィルム、白色反射・印刷基材、透明基材・加飾フィルム・インサート成形・プリスターパックの4つの用途での展開を目指す。今回開発したフィルム・シートは、NEDOのイノベーション推進事業を利用したもの。すでに顧客による評価が進められている。これまでバイオフロントで展開してきた繊維や樹脂にフィルム・シートが加わることで、バイオフロントを「環境ビジネス」の中核素材として推進していく。
- 2011.10.17 **東レ、中国でPLAコンパウンド生産**
 東レは中国でポリ乳酸(PLA)コンパウンドの生産に乗り出す。深圳の自社コンパウンド拠点で量産試験を開始した。主要ユーザーであるOA・複写機メーカーなどの生産拡大に伴う現地需要の増加をにらんだもので、供給量を順次増やしながら本格量産につなげる方針。一方、開発面ではナノアロイ技術など独自の材料・加工技術を駆使してPLAの生分解性が生かせる新規用途を開拓すると同時に、PLA発泡体をはじめとした応用製品の早期事業化を目指していく。
- 2011.10.13 **タイ・PTTケミカル、米国ネイチャーワークスに出資**
 米国ネイチャーワークスは10月12日、タイのPTTケミカルがネイチャーワークスに1億5000万ドルを投資すると発表した。カーギルがすべて保有していたネイチャーワークスの株式の50%を取得する。これによりネイチャーワークスが2015年に稼働開始を予定しているポリ乳酸(PLA)の第2製造拠点はタイに建設される見通し。ネイチャーワークスはPLAの世界最大手メーカー。バイオ由来製品への世界的需要に対応するためPLAの生産能力拡大に踏み切る。
- 2011.10.12 **日本バイオプラスチック協会、バイオジャパン2011でセミナー開催**
 日本バイオプラスチック協会は、パシフィコ横浜で行われた「バイオジャパン2011」で「バイオリファイナリーとバイオプラスチックの将来」と題したセミナーを開催した。セミナーでは神戸大学の近藤昭彦教授が「バイオ技術を利用した産業は急速な伸びを見せている。世界のバイオベース品への流れは止まらない。産学挙げて取り組んでいく必要がある」などと述べ、また北海道大学の田口精一教授は、微生物や植物の物質生産機能を利用してプラスチックを生産するプロセスを紹介、京都大学の小川順教授はバイオマスから微生物反応を利用した油脂生産のプロセスについて講演した。
- 2011.10.12 **トヨタ自動車、バイオPETを自動車内装表皮材に採用**
 トヨタ自動車は10月11日、バイオポリエチレンテレフタレート(PET)を原料とし、耐久性などを大幅に向上させた内装表皮材を開発、内装材表面積の約80%に採用したと発表した。従来のバイオPETでは適用が困難だったシート表皮や、フロアカーペットなどの内装部品への採用が可能になったとしている。今回開発した材料は、トヨタ自動車と豊田通商が共同で開発したもの。原料の一部であるモノエチレングリコールをサトウキビ由来の原料に置き換えた。
- 2011.10.06 **住化バイエルウレタン、ポリウレタン製品新規用途開拓でバイオベース製品提案加速**
 住化バイエルウレタンは、ポリウレタン製品の新規用途開拓を展開する。その一環としてバイオベースのポリウレタンの提案も加速させる。バイオ原料を使用することで、さらにポリウレタンの質

感などを向上させることが可能としている。自動車のバンパーや内装材を中心に、バイオベースポリウレタンで一定の市場を確保できるとして期待を寄せている。すでに新居浜工場でのバイオベースポリウレタンの生産体制は構築済みだ。

[▲このページのTOPに](#)

[個人情報保護方針](#)

Copyright (C)1999-2011:Japan BioPlastics Association. All Rights Reserved.